

大学入試改革と新学習指導要領～高大接続改革その後

一般選抜で英語4技能評価

大学入試で英語の4技能を評価する大学が増えている。これまでのように総合型選抜や学校推薦型選抜だけでなく、一般選抜で資格検定試験を活用する大学も目立つようになった。高校入試でもスピーキングテストを取り入れる動きは見られ、今後の入試の新たなトレンドになる可能性がある。

民間試験 国立16大学が利用

英語の4技能評価を巡っては、大学入試共通テストの枠組みで資格検定試験を活用する「英語成績提供システム」の導入が検討されてきたが、公平性確保などの観点から、導入の半年前に断念した経緯がある。これを受けて、今後の入試の在り方を議論して

一般選抜で英語資格検定試験を導入している国立大学の例(ナガセ調べ)

大学	学部・学科	出願資格	みなし満点	加点	得点換算
秋田	国際資源		○		
茨城	工			○	○
千葉	国際教養、教育、工など			○	○
東京芸術	音楽(作曲、器楽など)		○		
東京海洋	海洋生命科学など	○			
金沢	人間社会学域など			○	
福井	国際地域		○		
大阪教育	教育(英語教育コースなど)			○	
広島			○		
山口	国際総合科学			○	
九州	共創		○		
九州工業				○	○
佐賀					○
長崎	多文化社会		○		
宮崎	工		○		
鹿児島			○		○

きた文科省の検討会議は、資格検定試験は、大学の学部・学科によって「出願資格」や、一定以上の成績に対する「みなし満点」「加点」として利用されている。

「アドミッション・ポリシーに基づき、さまざまな方法で総合的な英語力を評価する」との基本方針を示した。

独自のCBT課す大学も

資格検定試験の活用だけでなく、CBT(コンピュータテスト)によるスピーキングテストを独自の

国立大学は16大学。千葉大学や金沢大学は複数の学部で加点などを実施していた。

「みなし満点」は秋田大学や福井大学、広島大学、九州大学など8大学が採用している。要件は「準1級以上」と、低めの級ながらも出願資格として利用している。

私立ではさらに多く、早稲田大学や上智大学、

明治大学が一部の学部で出願資格にした。東京都立大学は理工学部などの一一般選抜で英語の得点と

スピーキングテストを独自に実施する大学もある。国際的に活躍できる理

工学系技術者の育成を目的に、京都工芸繊維大学は総合型選抜で、コミュニケーション力を重視したスピーキングテストを実施している。

また、東京外国語大学は民間事業者と共同開発したテストを一般選抜で出題。受験生が自分自身について述べる問題や、提示された写真を見て質問に答える問題などを出題している。

自治体、受検料補助の動き

大学入試での資格検定試験の利用が広がる中、自治体が高校生の受検料を補助する動きもある。

東京都や福井県、福岡県、熊本県は低所得世帯向けに受検料の補助制度を設けている。

また、都教委では来春入学の都立高校入試で独自のCBTのスピーキングテストの活用を始め、スピーキング能力を「コミュニケーションの

達成度」「言語使用」「音声」の観点から評価する。成績は6段階で表示し、調査書に加点して利用するという。

福岡県など他の自治体でも、高校入試での4技能評価の実施方法を探っている。

全国一斉の英語成績提供システムの導入は見送られたが、各大学の個別入試での利用は今後も進むとみられる。

求められる」と強調する。探究そのものの評価に

探究そのものの評価に、探究そのものの評価に、探究そのものの評価に

探究そのものの評価に、探究そのものの評価に、探究そのものの評価に

探究そのものの評価に、探究そのものの評価に、探究そのものの評価に

探究そのものの評価に、探究そのものの評価に、探究そのものの評価に

新科目 高校はいま

(下)

高校で総合的な探究の時間(総合探究)が始まった。教科の「見方・考え方」を働かせ、自ら問いを見つけて探究する。そうした力の育成を目標に、これまでの総合的な学習の時間より「探究の質が高度化し、自律的に行われる」(学習指導要領解説)のが特徴だ。とあるか、「現在抱えている困り事は何か」など四

総合的な探究の時間

この項目から考えさせてきた。生徒が挙げるテーマは授業からの影響も大きく、お金の医療など。公民科の授業で会社情報などを載せた出版物を使った時は、投資をテーマにする生徒が多かった。テーマを決めたら概念図などを使って視野を広げ、課題を見つけていく。



設定した課題について、企業の担当者から助言を受ける生徒たち＝神奈川県立藤沢西高校

3年担任の吉中真菜恵

各自の興味に沿う課題設定

3年担任の吉中真菜恵

宮城県白石高校は、春に総合探究の研究テーマを